

やないづ 議会だより

第**133**号
平成24年(2012)
12月定例会報告

発行日：平成25年2月15日
福島県柳津町議会
(0241)42-2390
編集：議会広報編集委員会

12月定例会……………12月12日～14日

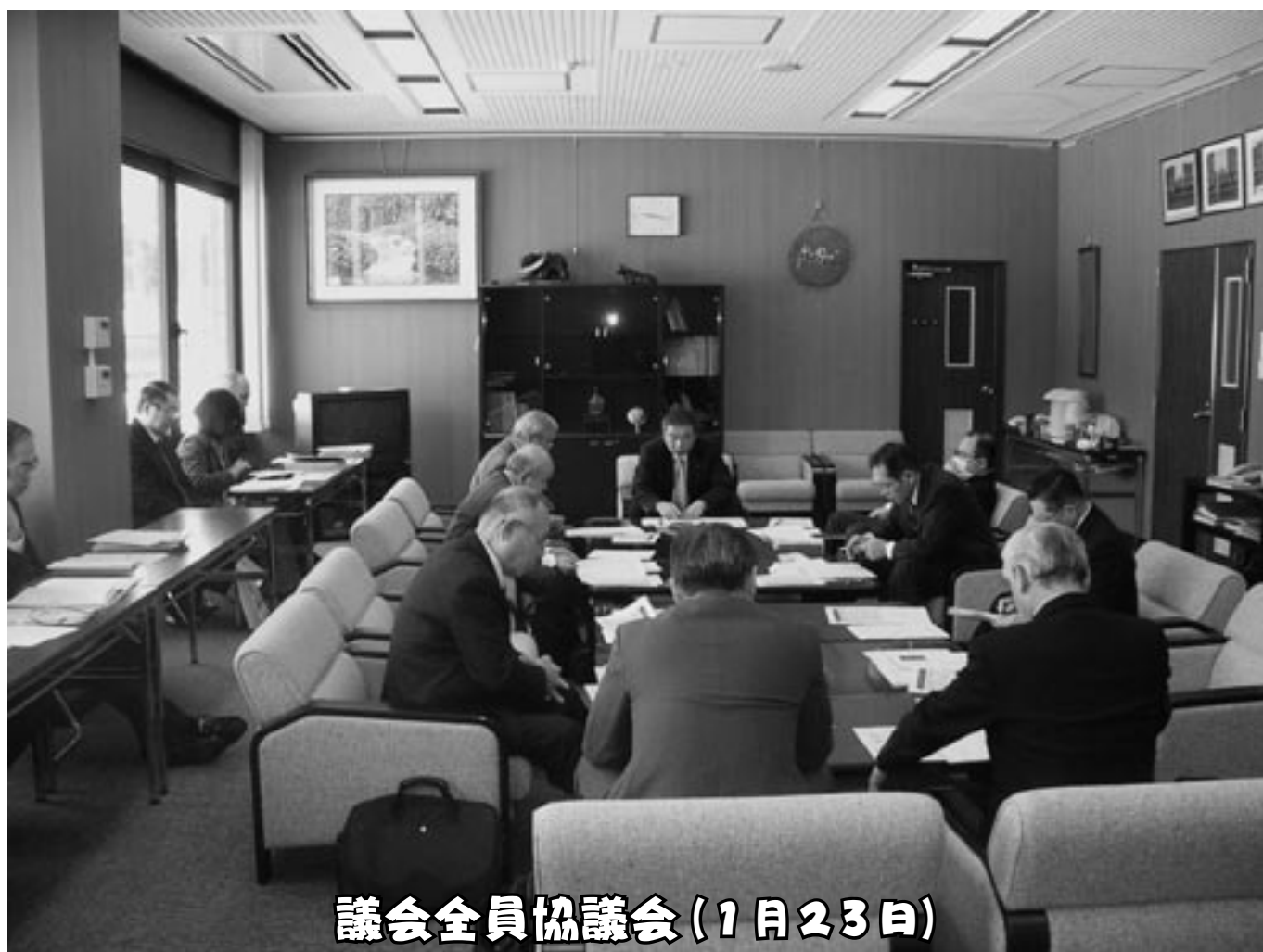
第4回臨時会……………10月18日

議案審議

予算 …………… 2

一般質問

- 水稻害虫等の被害への町の対応
 - 町外移住者の受け入れ
 - 高齢者の福祉対策
 - 過疎対策
 - 健全な財政運営
 - 林道の維持、管理
- 6議員が問う！ …… 3



議会全員協議会(1月23日)

審議された議案

平成24年第4回12月定例会が12月12日より14日までの3日間の会期で行われました。

専決処分

〔一般会計補正〕

予算総額に880万円を追加し、予算総額を42億2,946万円とした。

《主なもの》

▼総務費・選挙費 890万円

補正予算

一般会計総額42億7,195万2千円をはじめ、原案のとおり可決。

〔一般会計補正〕

予算総額に4,249万2千円を追加し、予算

総額を42億7,195万2千円とした。

《主なもの》

▼総務費・総務管理費 5,074万8千円

▼衛生費・保健衛生費 447万円

▼教育費・小学校費 241万5千円

〔国民健康保険特別会計補正〕

事業勘定の予算総額に68万8千円を追加し、事業勘定の予算総額を5億6,222万6千円とした。

〔後期高齢者医療特別会計補正〕

予算総額から130万3千円を減額し、予算総額を4,995万円とした。

〔介護保険特別会計補正〕

予算総額に386万4千円を追加し、予算総額を4億3,611万3千円とした。

〔簡易水道事業特別会計補正〕

予算総額に421万6千円を追加し、予算総額

千円を追加し、予算総額を1億2,625万3千円とした。

〔町営スキー場事業特別会計補正〕

予算総額に77万5千円を追加し、予算総額を1,225万円とした。

〔農業集落排水事業特別会計補正〕

歳出予算で28万3千円を追加し、予算総額を9,863万1千円とした。

〔下水道事業特別会計補正〕

歳出予算で39万9千円を増額し、予算総額を9,515万9千円とした。

〔林業集落排水事業特別会計補正〕

予算総額から7万1千円を減額し、予算総額を504万5千円とした。

その他

〔指定金融機関の変更〕

指定金融機関を会津みどり農業協同組合から平

成25年4月1日より、会津信用金庫に変更する案件を可決。

陳情

▼2013年度の教育予算の充実と教職員定数の改善を求める意見書の提出を求める陳情

◎陳情者

福島県教職員組合

中央執行委員長

五十嵐 史郎

福島県教職員組合

両沼支部長

岩橋 恵子

採択

◎審議結果

第4回臨時会

(10月18日)

条例

〔教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の一部改正〕

附則に次の1項を加える。

17 教育長の給料月額は、

平成24年11月1日から平成25年3月31日までの間、第2条の規定にかかわらず、給料月額から当該給料月額に100分の5を乗じて得た額(その額に百円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てた額)を減じて得た額とする。

ただし、期末手当の額の算出の基礎となる給料月額は、同条に規定する額とする。

補正予算

〔一般会計補正〕

予算総額に414万7千円を追加し、予算総額を42億2,066万円とした。

《主なもの》

▼商工費・商工費 400万円

▼教育費・教育総務費 △13万9千円

▼教育費・中学校費 29万4千円

お知らせ

第4回定例会の一般質問は町ホームページで音声をお聴きすることができます。第1回定例会は、3月6日から15日の予定です。皆さん気軽に傍聴においで下さい。

第4回定例会一般質問

一般質問は、議会招集日の12日に行われ6人の議員が質問に立ち、伝統ある行事・技能・芸能、地域整備及び集落の安定や食育の重要性等を中心に、町長の考えをいただきました。



1番 田崎信二議員

今年産米の水稲害虫等による被害に対する町の対応

今年産米の水稲害虫等による被害に対する町の対応

Q 今年産米は、カメムシ類の被害は甚大であり、買入れ産米等級の格下げ等により販売額低下につながり、農家所得に影響を及ぼしかねない。このカメムシの被害は年々拡大し、町全域の圃場で発生が確認された。農家において薬剤による防除、畦畔管理の徹底をしたが、減少には至らなかった。今後、指導機関とは別に、町単独の対応・支援策を伺いたい。

A (町長) カメムシは全国的に多発傾向のようだ。本町においても、今年産米が一部地域では大きな被害を受けている。その防除対策は、繁殖源となる畦畔等の除草管理と、適期の薬剤防除が主な対策であるため、各農家個別の圃場管理の徹底とあわせて、地域が連携して一斉に行うこと、より効果的な防除対策と

Q 今年産米は、カメムシ類の被害は甚大であり、買入れ産米等級の格下げ等により販売額低下につながり、農家所得に影響を及ぼしかねない。このカメムシの被害は年々拡大し、町全域の圃場で発生が確認された。農家において薬剤による防除、畦畔管理の徹底をしたが、減少には至らなかった。今後、指導機関とは別に、町単独の対応・支援策を伺いたい。

Q (地域振興課長) 薬剤及び一斉防除等の散布には、経費がかかる。県の関係機関・農協等が農家の皆さんと連携して、負担軽減を図りながら、取り組みたいと考えている。

Q 機械選別は、結果に対する対応であって、大事なものは、機械にかける前の予防策である。カメムシの被害は、本庁地域で十数年前からある。来年には支所地域でも被害が出るのではと思う。町は対応策をとれるのか?

Q (町長) 今年産米については相当なダメージがある。生産者が安心して経営できる体制づくりをすべき。その防除の方向に予算化をしていきたい。





2番 伊藤昭一議員

○町外移住者の受け入れ
○伝統のある行事・技能・芸能

町外移住者の受け入れ

町外からの移住希望者に対するサポートが、必ずしも十分でない。条例の制定も含め、受け入れ体制を早急に整備すべきと思うが。

（町長） 移住希望者に対する体制としては、公営住宅・住宅分譲地の整備、子育て支援の充実、情報通信基盤・生活基盤を初めとする都市部との格差是正や県のホームページを活用した空き家物件の紹介等をしている。

振興計画では、「交流・移住・定住の促進」の施策として、町外者を対象に柳津町に移住してもらうという意図で計画を策定している。また、農業経営に取り組みたい人には、国の「青年就農給付金制度」という支援策もある。今後、町は農業移住者に対して、具体的な支援制度を振興計画と共に検討したい。

6月定例会で質問した「空き家対策」について、どんな検討をしているのか？また、情報通信基盤に関して、9月定例会で回答された、「ラジオの受信障害の解消」の調査の現状は？

（総務課長） 会津地方振興局を中心に空き家対策の活用を進めている。現在も、県のホームページに掲載して空き家利用を促している。ラジオ受信障害については、NHKに調査を依頼。その結果報告は入っていない。

移住希望者に対する対応の不備を感じる。国や県に依存する体質で、町による魅力的な独自性、獨創性が見られない。魅力ある柳津町を早急に整備すべきでは？

（町長） 移住希望者がスムーズに移り住んで、そういった条件を満たせるような体制づくりは急務である。

なかなか周りの人と親しみが薄い、という地域の感じ方を聞く。その辺の環境整備は必要である。

魅力的で一貫性のある体系的なPR活動を含めて、町外者の受け入れる体制にすべきだと考えるが？

（総務課長） 柳津町だけでなく、5町村の中で検討を進めている。

国や県、制度をしっかり利用する。さらに柳津町の独自性・獨創性を加味し、町が総力で当ることが重要である。

伝統のある行事・技能・芸能

年中行事や郷土芸能など、かつては生活に根ざし、溶け込んでいたが、時代の変遷とともに失われつつある。町として、功労者を讃える「町表彰条例」に文化分野における儀表として対象にすべきでは？

（町長） 柳津町は地域の伝統文化の保存・継承、歴史的建造物・伝統行事を大切に守り継ぐ意識が高い地域である。町としては、町民の皆さんの関心を益々高められるよう、情報発信の場の提供、並びに人材育成や団体の支援等を検討したい。文化分野の儀表だが、柳津町表彰条例の中で当然、該当するものと考えられる。

（公民館長） 現在開催している「伝統工芸教室」等で学んでいる方の中に、若い方もおられる。さらに団体については、文化協会の活動の支援によって、地域にあるものを発掘し、継承へと繋げたい。

町の伝統ある行事・技能・芸能が失われていく現状で、さらに高齢化の進展が加速、全く余裕がない状況。文化活動をされている方々を積極的に褒め称えることが、町民の関心を高め、継承に努めることになるのでは？



6番 横田善郎議員

○地域整備及び集落の安定
○事業の推進
○高齢者の福祉対策

地域整備及び集落の安定

急速な高齢化により、各集落や市街化地域の衰退が顕著になった。地域の整備・安定化についての所信は？

（町長） 町の振興計画では、「だけれども安全で安心して生活できるまちづくり」を掲げ、8施策と21の基本事業に基づいた事業を展開。また、「連携と交流によるにぎわいのあるまちづくり」の中で、道路・公共交通ネットワークの充実を推進している。今後共、豊かな日々を過ごせるまちづくりに努めたい。

町では、地区行政の機能の維持のために、施策を考えているか？

（総務課長） 現在、そこまでの想定はしていない。只、国で実施している地域集落の社会的・経済的生活活性化を目指した「地域支援隊の制度」を取り入れることを考えている。

事業の推進

「中山間活性化総合整備事業・柳津北部地区」を実施中だが、2年後に完了となる。次の採択に向けての施策は？

（町長） 高齢化や担い手不足への対応が重要になる。維持管理等の労力削減や経費の削減を図るため、用排水路・農道・集落道等の整備に重点を置き、関係者との協議をしながら、引き続き中山間地域総合整備事業により農業施設等の整備を進めたい。

事業を起こすには、そこに合った事業をすべき。地元意向・問題点の把握や、執行部の情報の一元化による

中山間活性化総合整備事業は、次の計画があつたが、現状では、課題点・問題点を捉えていないのでは？

（地域振興課長） この事業は、農業生産基盤と生活環境基盤の部分と、多岐に亘っている。関係課等の事業展開を含め、調整しながら進める。

小水力発電や木質バイオ等による再生可能エネルギーは、地域の産業に結びつくのでは？

（町長） 今、小水力発電は具体的な方向に進んでいる。木質バイオ関係も、誘致できるような体制づくりが必要。

高齢者の福祉対策

わが町は、限界集落ならぬ「限界町村」となるのでは。総合的な高齢者の福祉対策を伺う。

（町長） 町振興計画を基本に、高齢者福祉計画や介護保険事業計画などの各種計画に則り、高齢者に対する施策・事業を関係機関と連携をとって実施したい。

わが町の一人暮らしは24世帯あるが、この方々の生活安定のための具体策は？

（町民課長） 高齢者の一人暮らしや二人暮らし等は、40世帯あることから、生活確認の体制は必要と考える。民生委員や高齢者福祉センター・保健師と協議し、ある程度情報を共有しながら進めたい。



10番 小林 功議員

食育の重要性

衣・食・住は生活の基本であり、その柱をなす。中でも食は重要。この食の教育すべてを指す言葉が「食育」というが、

①町は、この「食育」をどのように捉え、政策に活かしているのか？

②生活習慣病の増加原因として「飽食」が挙げられるが、食に関する健康指導をどう実施しているのか？

の疾病の予防と重症化の防止に努めている。

保育所では調理員に献立を任せられているが、負担軽減と保護者に安心感を与えるためにも、管理栄養士の関与が必要と考えるか？

一人一人の子どもに合った給食の量的・質的な提供が必要のことからも、栄養士が必要であると感ずる。

医療費の抑制には、特定健診の受診率を上げての疾病の早期発見と早期治療、さらに保健指導による生活習慣病の改善により疾病予防と重症化の予防が大切。一人当たりの医療費の抑制に向け、どのような取り組みを？

定健診・特定保健指導が一番重要。生活習慣病等については、食事・運動が大きな関係にある。個別面談による保健指導を実施していく。今年度、

県の補助を受け、管理栄養士が派遣されて保健師と同行し、指導している。

小学生を対象とした学童保育

現在、どのように学童保育を実施し、どう評価しているか伺います。

育所に「わくわくクラブ」、西山保育所に「なかよしクラブ」を置き、小学校1年生から3年生までの児童を対象に、授業終了後から午後6時30分まで預かっている。

「なかよしクラブ」は希望者がいないため、現在、休止。次年度の申込者数が、「わくわく」では大幅に増加することから、柳津保育所では基準面積を超えることから、場所の変更の検討が必要。

の問題だが、適当な場所がないということであれば、明確な答弁は出来ないが、学校についても検討することを考えている。

している。

健全な財政運営

次のことを伺います。

①「町税等滞納整理対策本部」の活動状況は？

②農業集落排水事業や公共下水道の加入率が、依然低い水準にある。今後の対応策は？

①徴収 専門員の雇用、差押さえ要綱の制定、強制執行の方策検討等を実施。毎月1日を徴収日とし、10班集体で戸別徴収。②加入率の低迷の原因は、社会的な経済の低迷、高齢化世帯等の増加等が主な原因である。今後共、戸別訪問等を強化し、新たな取り組みとして、区域内の既存の単独及び合併浄化槽から下水道への切り替えを推進していく。

ここ数年、徴収技術が向上して町税等の滞納整理が進んできた。しかし、その滞納額が健全な財政運営を阻害しかねない状況にある

ことは否めない。今後の具体策は？

の見える納付勧奨」ということで、成果が出ている。戸別徴収をさらに推し進め、徴収専門員には、住宅使用料まで範囲を広げ、成果を上げたい。

農業集落排水事業は、西山・大成沢・郷戸・野老沢・藤の5地区で実施。全体の加入率は50%を割っている。加入世帯が増えない中で、事業の維持・管理には、一般会計からの繰入れが必要。不公平感があるのでは？

建設課長) 100%の加入率であっても、平成23年度ペースでいくと、1,200万円の赤字を一般会計で補填。とりあえず、維持管理費を極力少なくし、加入世帯を増やしていく努力が必要と考える。



町振興計画に基づき、高齢者や障がい者に対し、地域や家庭での自立促進のため、各種施策・支援事業を展開。今後とも住民の安心・安全確保に努める。また、健康づくり、医療体制でなく、来年度は防災計画を見直し、町・消防団、地域の役割、ボランティア活動をわかり易くしたい。

町民の透明性を持つて、風評被害対策に関係するが、NHKの「八重の桜」の放送を活用すべき

町民の透明性を持つて、風評被害対策に関係するが、NHKの「八重の桜」の放送を活用すべき

支所地区の高齢化率が高い。将来的な支所地区のプランはあるのか？

9月に漆峠地区について、集団移転の話をした。国・県の支援事業により、4世帯が一堂に過ごせる対策を講じたい。さらに、西山保育所の耐震性の問題からも、西山支所・診療所・農協支所、この4施設を1つの場所(現支所周辺)にまとめた

小水力は、1万キロ以下のもを指す。採算ベースに合うように検討してからの決断を。さらに、木質バイオマス発電に必要な森林資源が、わが町には豊富にあることから、熱利用、そして雇用の創造へと導くべき。



3番 齋藤正志議員

平成24年のイベント・行事の総括 過疎対策

平成24年のイベント・行事の総括

今年一年の町の取り組み方の反省と、来年に向けた復興基金の有効活用について町の方針は？

観光PR イベント等は風評被害対策会議を設置し、キャラバン隊を編成して、首都圏・近県等において観光PRと農産物等の販売を実施。取り組み状況等について対策会議に報告し、各委員の意見を踏まえ、今後の対策に取り組むが、運営スタッフが重なり、開催日の主催者間の連携・調整が必要。復興に向けた基金の有効活用については、水稲放射性セシウム吸収事業・放射性物質モニタリング事業・風評被害事業に、基金繰入れを計画。

復興元年ということで、様々なイベントを開催したが、次年度以降の考えは？

地域振興課長) 交遊人口を拡大する上で重要な手段。しかし、団体を組織する運営スタッフが減少し、一人一人の役割が大きくなり、恒常的な問題である。其々に反省点はあるが、今後も継続していきたい。

「赤べこまつり」に対しては、高い評価を得たと感じるが、秋の観光シーズン開催の「マラソン大会」、町も後援して新たに時期を選定しては。

地域振興課長) 主催者側では、門前町サミットと赤べこまつりとの継続する形で実施。人的な不足の問題もあり、年間行事の設定の段階から調整が必要と考える。

豪雨災害復興基金が正式に決定したが、「賠償金では」という懸念があるか？

(総務課長) 義援金・見舞金として

過疎対策

人口減少による過疎化に住民の不安が高まっている。今後、さらに高齢化が進み、将来への不安がある。町はどのように安心・安全を担保していくのか？

防災計画を見直すというが、防災の面からも、救急車の到着に時間がかかることが

小水力は、1万キロ以下のもを指す。採算ベースに合うように検討してからの決断を。さらに、木質バイオマス発電に必要な森林資源が、わが町には豊富にあることから、熱利用、そして雇用の創造へと導くべき。



5番 菊地 正義員

○林道の維持・管理
○柳ヶ丘地区の水道
○五畳敷地区内の除雪

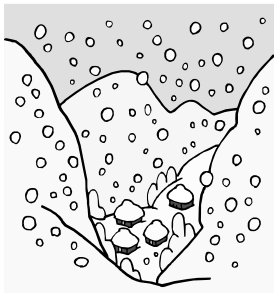
林道の維持・管理

Q 町内の林道は晩秋を迎え、側溝に相当量の落ち葉等があり、このまま放置すると災害が予想される。町の林道の維持・管理は？

A (町長) 町道・林道等の維持・管理は、各地区にお願いしているが、地区の労力だけでは管理が困難な路線は、町で管理している。林道は側溝のふたがけになっていないため、落ち葉が堆積し、水があふれることにより災害の発生につながる場合もある。定期的な管理は難しいが、災害の発生を未然に防ぐよう維持・管理に努めたい。

Q 雪の季節を前に、側溝上げはできないか、具体策を伺いたい。

A (建設課長) 側溝上げは、実際にひどい所から行っているが、林道本数は20本ほど存在する。これら全部が



ふたがけの側溝ではない。主に生活路線を重点的に側溝上げをしているが、特にあふれている所があれば、そこを優先的に実施したい。

Q 昨年の7月に、ある箇所ですり砂「土砂抜け」が発生して通行めになった。私も現場に行ってみて来た。これも木の葉や小枝を撤去すれば、あれだけの災害はなかったと思うが如何か？

A (建設課長) 林道は、総延長で60kmほどある。1ヶ月以内の範囲で、すべての側溝の処理は不可能。特に、落ち葉が重なり、水が流れて危険が予想される箇所については、順次、対策をしていきたいと考えている。

柳ヶ丘地区の水道

Q 柳ヶ丘住宅が新たに15戸・建設中であるが、近隣地区の水道に影響はないか？

A (町長) 柳ヶ丘地区の水道施設は、柳津簡易水道に含まれる。1日の最大給水能力から考えると、新たに15世帯増加しても周辺地区への影響はない。

Q 新たな入居者は、30人か40人になると思われる。それが盆や正月には、一時的だがもっと多くの人が生活する。絶対に支障はないか？

A (建設課長) 現在の給水人口が減っていることから、15世帯増加しても十分足りる水量です。

Q この地区の防火水槽は高台にあり、冬期間の消化活動に支障が予想される。水槽

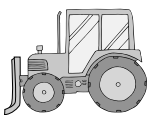
五畳敷地区内の除雪

へ通ずる道路の除雪をすべきでは？

A (町長) この地区には3基の防火水槽があるが、1台は高台にあり、現在の道路は幅員が狭いため、町で配備している除雪車では通行不可能。除雪車が入れるよう、道路の拡張について地区と協議を進めたい。

Q 地区では、3名の方が小さなバックホーを持つことから、交代で防火水槽まで除雪している。地主も協力するので、入り口の拡幅と側溝のふたがけをしてほしい。

A (建設課長) 高台にある防火水槽までの道路は、途中まで改良しており、入り口が狭いので、そこを拡幅し、地区内も除雪車が通れるようにしたいと考える。そのために、地区と協議していきたい。



- 【広報編集委員】
- 委員長 鈴木 吉信
 - 副委員長 齋藤 正志
 - 委員 伊藤 毅
 - 磯部 静雄
 - 田崎 為浩

○お詫びと訂正
前月号(平成24年11月15日発行・第132号)の一般質問の内容に誤りがありました。お詫びの上、訂正させていただきます。

【誤】10頁・中学校の統合問題での教育委員長の答弁で、「平成27年の統合に向け、教育委員会として早めに結論を出したい」

【正】「平成27年に統合したい」という町長の考えも承り、教育委員会としての結論を早めに出したい。」